

農業委員会だより



ゆりほんタイムの番組より ～鳥海貝沢地区～

令和3年7月16日、ゆりほんテレビとコラボし、ドローンによる農地の空撮とゆりほんタイムの番組制作を行いました。

今回、鳥海地域の貝沢・猿倉地区の青々とした田んぼや、お盆に合わせて出荷予定の鳥海りんどうを撮影。ドローンで撮影した写真を表紙にするのは初めての試みとなります。

当日は、晴天だったものの鳥海山に雲がかかり、なかなか姿を見ることができませんでしたが、普段とは違った角度から見る農地の風景を撮影することができました。

こちらからゆりほんテレビで紹介された動画を You Tube でご覧頂けます▶
https://youtu.be/qMPtqSbz_gg





自分の土地であれば、自分の好きなように「売買」や「住宅建築」ができると思われていませんか？ 基本的にはその通りなのですが、この土地が「農地」だとすれば全く話はかわってきます。一体どういうことでしょうか。今まさに、祖父から土地を相続した新婚ホヤホヤの飯内建雄が、妻・住子とマイホームを建てようとしています。

じいじからもらったこの土地にマイホーム建てらるっぺよ！

キヤー、ステキ！ アタシは自分の部屋が1反歩欲しいわ。

OK！OK！（で、一反歩いて何だべ？）

ちよつと待てい！それ農地かもしれないゾ！よく確かめるんだ！

アンタ誰？！

オレの名前は野内守（のうちまもる）。農地をこよなく愛する男だ。農地に住宅を建てるためには

農業委員会の許可が必要だし、許可されない場合もあるんだ！

エーッ！ あ、確かに「畑」になってる！

でもこれ自分の土地っしょ！自分の好きにしてなしてダメだっぺ？！

確かに気持ちはわかる。だけでもこの国土の精米…いや狭い日本において、農地は限りある貴重な資源。農地の所有を他の人にうつしたり、農地を農地以外のものにするこは厳しく規制されている。この「農地法」によって！



登場人物

ガーーーーーン！

宅地だけじゃない。許可や届出無く次のような使い方をして、それは「違反転用」になってしまうから注意するんだ！これ重要！

青空駐車場・資材置き場・不要品の置き場・建設残土の捨て場・農業用施設 等



(でもバシなきゃ、いいんだっぺよ。ヒヒヒ)



わかった！おいら頑張る！



スウちゃん…。



良かったねタッチー。マイホームの夢はまだまだこれからよ。



ただし！農地にかかわる法律は複雑だから、きちんと農業委員会に相談することが必要だ。



そうしょげるな。きちんと許可を受ければいいのさ。農地を愛するオシにとって、農地が減るのは悲しいが…。



お、おいらのマイホームの夢が…



違反転用とみなされれば、「3年以下の懲役」「300万円以下の罰金」や「原状回復命令」が出されることもある。大変だぞ！



(いや、まだ計画中で違反転用してないのに…)



ひーっ！



君が！違反転用をやめるまで！殴るのをやめないうっ！(※暴力はいけません)



ワー…！…何をやるんだあ？！



バカチンガー…！(「農地法」で殴る)



この…。



それから、市広報8月1日号にも「農地転用」の特集記事を掲載しているから、是非見てくれ！オシが尊敬する農業委員の叔父さんが目印だ。よろしくな！



(連絡先は6ページに記載)



コクコク！(激しくうなづく)



折角マイホームを建てたのに、解体して農地に戻せって言われたら悲しいべ？

農業者年金で将来に安心を！

●加入要件

- ・国民年金の第1号被保険者(保険料納付免除者除く)
- ・年間60日以上農業に従事する20歳以上60歳未満の人

●特徴

- ・積立方式のため加入者数や受給者数の影響を受けない安定した制度
- ・保険料の額は千円単位で自由に設定(月額2万円～6万7千円)
- ・終身年金(80歳前に亡くなった場合は死亡一時金あり)
- ・保険料が全額社会保険料控除の対象
- ・国庫補助による保険料負担軽減(一定要件あり)

お問い合わせは農業委員会事務局まで (TEL0184-24-6260)

「人生100年時代」と言われる中、安心して老後を迎えるためには、早めによりしっかりとした備えが必要です。ぜひ農業者年金加入をご検討ください！

国民年金だけでは生活費が不足することがわかった。

公的制度なので何事にも代え難い安心

国庫補助は自己負担が抑えられありがたい

節税効果が大いなる魅力





農政転換への挑戦

旧下川大内小学校跡地を菌床シイタケ団地に！

大内地域中保農事組合法人 真坂ファーム

代表 眞坂平通(68歳)

平成28年に閉校した下川大内小学校グラウンド跡地に菌床シイタケ生産団地が整備され、現在2法人、13棟のハウスでシイタケの菌床栽培を行っている。そのうちの3棟を(農)真坂ファームが管理しており、一棟に約9千個の菌床がズラリと並んでいる。

閉校になった下川大内小学校跡地については、地域住民から有効活用の要望があり、代表の眞坂平通さんも母校でもあるこの場所を荒廃させるわけにはいかないとの思いが強くあった。そこで、中保の自宅で16年前からシイタケ栽培を行っていた眞坂さんが規模拡大することになった。シイタケは初期投資に費用がかかるものの、年間を通して安定した収入が得やすいため、JAと連携しながら国や県、市の様々な制度、補助金を活用し、規模の拡大を図った。不安も多くあったが、多くの農業者が後継者問題を抱える中、一緒にシイタケ栽培に携わっている長男の公平さんが賛成してくれたことが大きな後押しとなった。

シイタケは、JAに出荷し、主に関東圏で販売される。今後は菌床の導入から収穫、出荷まで、すべて団地内で行えるように法人、JAと協力し、年間を通し安定した出荷販売を行い、生産基盤の充実を図りたいと話す。

「目標があると頑張れる。販売目標を達成したら従業員全員で海外旅行でもするが。」少年のような人懐っこさで夢を語ってくれた眞坂さんの笑顔が印象的だった。

(文) 伊藤直子委員



地域の話題

東由利地域

みどり保育園の苗植え

5月下旬、みどり保育園の野菜の苗植えにお邪魔しました。

1歳児から5歳児の12名が真剣な目で見つめる先は、自分たちで種をまいて大きくなった枝豆やとうもろこしの苗。ビニールの温室の中で優しく育てたかいがあって、小さな芽から苗になった様子が誇らしげ。ほかに先生が用意したスイカやピーマン、モロヘイヤなどの苗もあり、「これは、大きくなったら何になるかな？」の先生からの質問には、早押しクイズさながらで我先に元気な声を上げていました。しかも、その回答は正解の連続。あまりの野菜博士ぶりに大変驚かされました。

質問タイムの後は、いよいよ苗植え作業です。大事な苗の茎が折れないようにポットからそと取り出す方法や土のお布団のかけ方などを先生に聞く様子は真剣そのもの。年長さんの5歳児は、聞いた話を思い出しながら苗をポットから広い畑へ植え替え、小さい園児は先生に手伝ってもらいながらおっかなびっくり苗



▲ポットから苗を取り出す方法を真剣に聞く子どもたち

◀オクラの苗に土のお布団をかけています！



を手にしていました。最後は、並々の水が入った大小様々なじょうろを一生懸命運び、「お水をもっとあげようか？」「大きくなってね」と言いながらたっぷりの水と愛情を注いでいました。

苗の成長をとても楽しみにしている子どもたち、園舎の裏の畑へ毎日通いどんな変化に気づくのでしょうか。今度は、野菜博士の研究結果をインタビューしたいものです。

(文) 事務局 齋藤



現在、岩城の赤平地区にて農地を借りていますが、昔からこの地域では稲作が中心のため、私が借りた農地も水田から畑地へ転換する必要があります。

未来農業のフロンティア育成研修に参加して、露地のネギとハウスでのパプリカ栽培を主軸とする経営方針を定め、2年目を迎えました。ハウスの建設時期の都合上、パプリカは今年が1年目となるため、色々な変化や病害虫の影響を見逃さないよう注意深く作業することを心掛けています。



農業にチャレンジ!

岩城地域 亀田 高野直樹 (36歳)

大学卒業後、横浜で機械設計の仕事をしておりましたが、もっと体を動かす仕事をしたいと発起して、地元岩城で農業を始めようと考えました。

ありま
した。
研修中
から土
壌改良



を始めて3年目になりますが、水はけが良くなるにはまだまだ時間がかかるようです。また、私の畑の周囲は全て水田なので、病害虫についても周囲から、また周囲へと与える影響についてもよく観察しなければなりません。

就農して2年目になりますが、まだまだ学ばなければならぬことや作業の効率化、農機具の導入等課題は多いため、一つずつ解決していければと考えています。

農業を始めるにあたって、市役所の関係者をはじめ、地域の農業委員さん、JAの担当者、周囲の農家さん、研修先でお世話になった多くの人にご指導いただきました。今後とも周囲の方々との縁を大事にしながら精進していきたいと思っております。

(文 高野直樹)
(担当 吉尾麻美委員)

生涯現役

本荘地域赤田

高野和弘 (73歳) 高野たえこ 妙子 (69歳) ご夫妻



伝統文化を保存伝承し、新たな観光拠点として赤田地区に平成8年に完成した「五峰苑・東光館」。2年後、隣接した圃場で観光の付帯事業による補助金を活用し、ブルーベリーの栽培を始めました。

現在は、12種類の品種を栽培しており、500円硬貨並みの超大粒のチャンドラーや濃厚な味で香りの良いコリンズ、高野家で一番早い時期に収穫できる早生で甘みと酸味のバランスが良い今年一押しのウェイマウスなどがあります。

ブルーベリーの根は、浅く横に広がる特徴があるため、バークと呼ばれる杉皮樹皮を敷き詰め乾燥を防いでいます。



黒いリングが甘いサイン!



今年一押し品種ウェイマウス

また、軸の付け根部分がしっかり黒いリングになっているものがとても甘いため、見極めて収穫。ブルームと呼ばれる白っぽい粉がついているものは鮮度が良いため、収穫後早めに食べていただけるよう作業をしております。

栽培のこだわりは、農薬などは一切使用せず、毛虫などの害虫をピンセットで駆除し、雑草もひとつひとつ手作業で除去しているところです。

販売は、毎年お得意様だけで完売。今シーズンは、5月中旬、果実が実るために必要な花芽が膨らむ前に霜の影響を受けてしまい、収穫量が例年に比べ少なくなりました。毎年心待ちにしているお客様に販売できないのがとても残念です。

また、ブルーベリーのスズランのような白い花やたわわに実った紫のブルーベリーの風景を楽しみにしている方も大勢いるため、毎年喜んでもらえるよう夫婦2人頑張っていきたいと思っております。皆さん、是非赤田にお越しください。

(文 高野和弘)
(担当 佐々木純一委員)



頑張る営農者

鳥海地域上川内長坂村 上勝明 (47歳)

鳥海りんどう栽培は、平成17年に父の茂樹さんが12aで取り組み始めたのがきっかけ。いざ収穫を迎えると当時の稲作4ha弱と収益が一緒であったことから本格的に転作を進め、現在は50aのりんどうと2.4haの水稲を手掛けている。

収穫初年に出荷調整作業が間に合わず、弟に会社を休んで手伝ってもらったり、徹夜で作業をしたりと大変な思いを経験したことから一念発起。勝明さんは勤めていた会社を辞めて専業農家として歩み始める。点検していた水田を集約することで効率化。同時に花の余分な葉や茎をカットし結束などをオールインワンで行えるフラワーバインダーという機械の導入を進めていった。



導入したフラワーバインダー

出荷調整作業時にフラワーバインダーなどの機械につくのは専ら勝明さんで、「天候に左右されてもできることはある」と製品になる工程を間近で確かめることで栽培方法にフィードバックさせている。

収益を上げるため、りんどうのハウス栽培や晩生品種の栽培などを試行錯誤。高品質な露地りんどうを価格が上がる需要期に出荷する経営スタイルを確立した。JAの指導もありの確に需要期に合わせる事ができている。

手作業が中心のため4人を雇用しており、手間をかけただけ品質と収量に結びつくため、とてもやりがいを感じている。「これからも両親をいたわりながら高品質なりんどうを生産し続けていきたい」と、意気込みを語ってくれました。



【所感】
梱包作業は、最盛期には夜中の1時より始めるのですが、収穫したりんどうに水を吸わせたり汗をかかないように風を当てたりとその数時間前に行う作業もあるそうです。睡眠

毎日は大変。1ヶ月だと遅い。
そんなあなたに
まとめて読める!
週刊紙

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊
月4回金曜日発行
月700円、年8,400円
(消費税込)

- 様々な問題に、じっくり鋭く、迫ります。
- 充実した経営情報と流通の現場情報を伝えます。
- 農地を守り、担い手を応援する農業委員会活動を伝えます。
- 地域を元気にする情報を提供します。

購読申込は農業委員会事務局または各総合支所産業課内庶務班まで。

眠時間確保の観点からもICT技術を用いて自動で行える仕掛けが待ち望まれます。どうぞお体には気を付けて頑張ってください。
(文 佐藤崇委員)

編集後記
今回の発行にあたり投稿にご協力いただきました皆様、ありがとうございます。
様々なことが起きる昨今、この農業委員会だよりをご覧いただき、少しでも気持ち明るくなり活力が出るような記事づくりに励んでまいりたいと考えております。
地域の話題、情報など募集しておりますので委員までご一報ください。
(畑山留美子委員)

農業委員会		
● ◆本 庁 (事務局)		
吉尾	佐々木	佐藤 純一
麻美	小松 健	佐藤 崇
◆各総合支所 (産業課内)		
・	・	・
齋藤	伊藤	佐藤 留美子
衛	藤 直子	畑山 順子